系統的なキャリア教育の推進に向けて

県教育庁教育振興部学習指導課

　令和４年３月に策定された「千葉県総合計画～新しい千葉の時代を切り開く～」においては、全ての子供たちが夢や目標を持ち、将来、生まれ育った地域や世界で活躍することができるよう、個々の能力や可能性を最大限に伸ばし、千葉県の未来を担う人材を育成することが求められているとされている。県教育委員会では、同計画の取組の一つである「学びを将来へとつなぐ系統的なキャリア教育の推進」に基づき、働くことの意義や尊さ、学校における学びと自分の将来との関連などを考えさせる様々な取組を実施している。本稿では、その一部を紹介していきたい。

1　令和４年度までに開始した主な取組

「職業理解と進路選択能力の育成」「社会人として求められる課題対応能力の育成」「高校生の就職支援」の三つの柱に基づき、各種取組を進めてきた。

⑴職業理解と進路選択能力の育成

「ちばで発見！職業観育成コンテンツ」として、実社会で働く人々のドキュメンタリー動画や、高校の専門学科を紹介する動画を令和４年度に制作した。中・高校生が産業や職業についての理解を深め、職業意識の形成や主体的な進路選択に役立てることができるよう、映像資料とともに、授業で活用することのできるワークシート例を県ホームページで公開している。

　また、令和４年度から、「高校生のためのキャリアデザイン講演会」として、県立高等学校において、企業経営や科学技術分野等で活躍する著名人による講演を実施している（令和４年度実績５校）。講演内容は動画に編集し、県内高校生向けに限定公開して、高校生が様々な生き方や考え方に触れ、職業観を養い、見通しをもって学校生活を送るきっかけとすることを目指している。

「ちばで発見！職業観育成コンテンツ」職業編の内容

職業編　８本（各５分程度）

業種	企業	所在地	出演者
情報・ＩＴ	株式会社ＺＯＺＯ	千葉市	経営者・ディレクター
農業	ＧＲＥＥＮ　ＧＩＦＴ株式会社	横芝光町	経営者
工業	フクダ電子株式会社白井営業所	白井市	製造部・生産技術部
水産	嘉平屋株式会社	銚子市	製造部門・梱包出荷部門 販売部門
観光	小湊温泉　吉夢	鴨川市	フロント係・ルーム係 総料理長
福祉	特別養護老人ホーム柏きらりの風	柏市	介護福祉士・介護士
国際	成田国際空港株式会社	成田市	広報部・整備部
医療	国際医療福祉大学成田病院	成田市	救急科医師・看護師・助産師

【インタビュー内容例】
・どんな仕事をしている会社なの？
・その仕事を目指したきっかけは？
・その仕事にはどんな人が向いているの？
・千葉県で働いている理由やメリットは？
・学生時代はどんな学生だった？
・あなたはどんな仕事をしているの？
・その仕事の面白さや難しさはどんなところ？
・仕事をするうえで大切にしていることは？
・学生時代にやっておいた方が良いことは？
・中高生に向けてのメッセージ　等

⑵社会人として求められる課題対応能力の育成

　令和４年度から、専門学科を設置する高等学校を拠点とした複数校グループの高校生が、専門学科の特性を生かして地域課題を設定し、解決に向けて探究活動を行う「課題探究型キャリア教育ゼミ」を実施している（令和４年度、５年度ともに、３グループ９校が活動）。活動は、事業所や市役所等と連携して、職場体験等を交えながら行っている。自己の役割を認識し、他者と協力しながら、主体的に課題解決に取り組むなど、社会人として必要な資質・能力の育成を図っている。

「課題探究型キャリア教育ゼミ」令和５年度テーマ

テーマ①：新商品開発を通じた地域貢献・食育活動

食品ロス問題について、地域を対象に調査するとともに、食品ロス食材等を使用したメニュー開発を行い、こども食堂での商品の提供を目指す。

テーマ②：園児・児童生徒に対するロボット操縦体験・プログラミング学習

高校生がロボットを製作し、地域の幼稚園や小中学校等に赴き、ロボットのプログラミングや操作方法などを子供たちに体験してもらう出前授業を行う。

テーマ③：チーム茂原のポテンシャルを生かしたキャリア教育

主体的に茂原市の課題について探究活動を行うとともに、茂原地域の３校が「チーム茂原」として新たな商品開発等の可能性を考える。

⑶高校生の就職支援

平成14年度から行っている「高校生就職支援事業」の対象として、令和５年度は、31校33課程を指定し、指定校が、就職活動を充実させるために、生徒対象の講演会や教員の進路指導に関する研修を行う際の費用、インターンシップ保険費等を補助している。

また、近隣事業所の進路開拓などを行う就職支援教員を18校に配置するほか、千葉労働局と連携してインターンシップの受入れ等を行う事業所の情報を各校に提供している。

２　令和５年度の新たな取組

これまで前述の取組を実施してきたが、本県では、全国平均と比較して高校卒業者における就職希望者の就職率が低く、３年以内離職率も高い状況が改善されず、進学者も含め、高校卒業までに、十分なキャリア意識を育成できていないという懸念が生じている。

また、デジタル化などの社会の変化の中、高校進学の段階から全般的に普通科・文系志向が見られ、産業界が求める人材と、教育現場から輩出される人材のミスマッチが起こっている可能性も指摘されている。

⑴キャリア教育の推進に係る調査研究

これらの課題の原因を究明し、改善策を検討するために、改めて子供たちの職業意識等の実態、産業界が求める人物像等について把握することとした。

現在（令和５年９月）、中高生、大学生、社会人、県内企業等を対象に、順次アンケート調査及びインタビュー調査を実施している。この結果を分析し、本県の課題に対応した、発達段階に応じた効果的な取組を立案し、次年度以降実施していくこととしている。

⑵普通科高校を対象としたキャリア教育実践プログラムの試行

課題となっているキャリア意識の育成に着目し、県立高校普通科３校の生徒を対象に、モデル事業を実施している。民間事業者と連携し、キャリアプランニングや、自己理解の重要性について学ぶ教材、適性等診断テストを活用して、自己を見つめ、目的意識を明確にして卒業後の進路選択につなげるためのプログラムを試行的に実施している。

モデル校の生徒たちの意識の変遷を見取り、次年度以降の展開につなげることとしている。

３　おわりに

令和５年３月に、県独自の「キャリア教育の手引き」を「小・中・高等学校を通した系統的なキャリア教育」という視点で改訂し、キャリア・パスポートの有効な活用や、各教科の学びとの関わりを意識したキャリア教育の実践などと併せてホームページに掲載した。

この手引きの活用などを通して、本県の子供たち一人一人が、社会の変化に主体的に向き合い、他者と協働しながら自らの将来を切り拓いていくことができるよう、各校においては教育活動全体を通じて、実践的なキャリア教育に取り組んでいただくことを願うとともに、県教育委員会としても、今後ともより実効性のある取組を進めていく。

児童期の今必要な力を育てるキャリア教育

県立習志野特別支援学校校長　川嵜（かわさき）　洋子（ようこ）

1　はじめに

背負った真新しい鞄の重みと戦いながらも元気に登校する姿が愛おしく、目を細めて見つめてしまう新１年生。ようやく学校生活が始まった子供たちにとってのキャリア教育とは何か、キャリア教育の推進が示されて久しいが、それを明言することの難しさはまだあるのではないかと思う。

本校は開校９年目の知的障害を主とする特別支援学校である。小学部単独のため、他学部の教育課程に左右されることなく教育活動を進めていくことができる。半面、卒業後の中・高等部の学校生活をイメージすることが難しい。そのため、将来を見据えたキャリア教育に関しては課題も多い。

2　キャリア教育に関する現状と課題

学習指導要領では、特別活動を要としつつ各教科・科目等の特性に応じてキャリア教育の充実を図ることが示されている。本校でも学校経営の重点目標にキャリア教育の推進を掲げている。係活動や挨拶等は取り組みやすいが、各教科等の学習では難しさを感じている。キャリア教育というと就労と関連させやすいワークキャリア（働く力）のイメージが強く、各教科等の授業で取り入れる具体的な内容が分かりにくいことも影響している。キャリア教育の視点を絞ることで教職員の理解が深まり、教育活動での実践につながるのではないかと考える。また、保護者への周知を図り、連携を進めていくことも重要である。

3　キャリア教育の実践

令和４年度から県教育委員会の「職業教育・キャリア教育の充実」に関する研究指定を受け、校内研究と関連付け取り組んでいる。ここでは、⑴キャリア教育の視点と育てたい力（キャリア発達）の焦点化、⑵授業を通した実践、⑶教職員や保護者の学びの３点についての取組を紹介する。

⑴キャリア教育の視点と育てたい力の焦点化

①キャリア教育の視点

就労はまだ先である児童期の特に知的障害を有する子供たちにおいては、将来を見据え、この時期に求められるキャリア発達は何を示すのかが分かりにくい。そこで、職業教育と関連性の高いワークキャリア（働く力）の視点ではなく、日々の生活で必要とされる生活全般の基盤となるライフキャリア（暮らす力・楽しむ力）の視点に焦点を絞ることとした。

②育てたい力の焦点化

ライフキャリアの暮らす力、楽しむ力をより具現化して、「育てたい力」として示した。課題対応能力、キャリアプランニング能力、自己理解・自己管理能力、人間関係形成・社会形成能力と関連させて、「活動に取り組み楽しむ力」「見通しをもって取り組む力」「自分で頑張る力」「人と関わる力」の４つの力とした。

さらに、育てたい４つの力の具体的な観点として15の観点を示し、子供の姿として捉えることができるようにした。

育てたい４つの力	育てたい４つの力の具体的な観点（15）
【活動に取り組み楽しむ力】 （課題対応能力）	『学びに対する前向きな態度』 『興味関心』　『遊び』
【見通しをもって取り組む力】 （キャリアプランニング能力）	『予定』　『夢や希望』 『目的意識』 『やりがい』　『自己選択・自己決定』
【自分で頑張る力】 （自己理解・自己管理能力）	『基本的な生活習慣』
【人と関わる力】 （人間関係形成・社会形成能力）	『伝える力』　『役割』 『応じる力』　『挨拶』 『共感する力』　『集団参加』

＊４つの力と具体的な観点は一対一対応ではなく複数の力に関連する

具体的な観点の一例
『予定』：日課に沿って行動する。変化に対応する。
『やりがい』：「やりとげたい」という思いをもち取り組む。
『自己選択・自己実現』：好きなことや苦手なことがわかる。

⑵授業を通した実践

①授業作りと展開授業

各教科等の授業の中で、キャリア教育の視点を生かした授業作りはどうあるべきか研究を重ねている。

令和４年度は、これまで校内研究で取り組んできた生活単元学習に絞った。

令和５年度は、教育活動全体を通じた取組に広げ、国語・算数、音楽、体育、図画工作、生活の各教科で授業研究会を行う。

授業作りで押さえるキャリア教育の視点でのポイントについて、育てたい４つの力ごとに明確にして共通理解を図っている。

育てたい４つの力	授業作りで押さえるポイント
活動に取り組み楽しむ力	分かりやすく満足できる内容
見通しをもって取り組む力	期待感をもつことができる授業
自分で頑張る力	実態や課題に応じた単元設定 授業構成の工夫
人と関わる力	友達や教師と関わりを深め、 協力して活動する場面の設定

②キャリア教育の視点での授業評価

キャリア教育の視点をもって各教科等の授業を評価できるように、授業参観での記録用紙を工夫している。押さえるポイントにより導き出せた子供たちの姿、期待する姿が引き出せなかった場合の改善策についての記入欄を設けるなどしている。

③エピソード記録

子供たちの変化等について、エピソード記録により子供の思いや人との関係性等、キャリア発達の視点で捉え把握している。エピソード記録を基に協議を行うことは、キャリア発達の状況を子供の姿から見とる視点の学びにもつながっている。

⑶教職員や保護者の学び

①教職員の学び

就学前療育施設、本校卒業後進学先特別支援学校、高等部卒業後の就労施設での体験研修や情報交換会を行っている。キャリア教育の視点での共通性を見出し、指導支援に生かす情報を得る機会となっている。

②保護者の学び

学校だよりでキャリア教育の特集を組んだり、全校保護者会等で身近な例を挙げ子供たちのキャリア発達について伝えたりしている。繰り返し周知することにより、保護者の理解が深まってきている。

４　結びに

重い鞄も軽々と背負い、横顔にふと大人っぽさを醸し出す６年生。小学部６年間で、子供たちは心身共に大きく成長する。一つ一つのキャリア発達は小さいが、その積み重ねで、子供たちは将来へつながる力を身につけていく。改めてキャリア発達を促す視点をもち、教育活動を進めていく重要性を痛感する。

そしてまた教職員も、一人一人が自らの役割を全うする中で、キャリア発達が促されている。そうした教職員の支えで、子供たちの元気な声や笑顔が今日も校内に満ちわたる。

3 シリーズ　現代の教育事情

街にこそ、師あり！
～『茂高街塾』の取組・入学から現在までの報告～

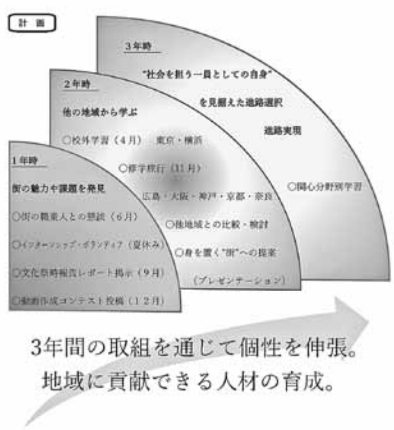
県立茂原高等学校教諭　太田代（おおたしろ）　里子（さとこ）

1　はじめに

１年前の今頃、ある大学の総合型選抜の選考書類の「総合的な学習の時間の取組とその学びを生かしてあなたが今後取り組みたいことを述べなさい。」という項目に対峙し、生徒と頭を抱えてしまった。私が担当した生徒達は、コロナ感染症拡大の初回の緊急事態宣言のさなかに入学し、度重なる休校期間を経て、辛うじて修学旅行にこぎつけ、文化祭は３年時に１回だけできるという状況で高校３年間を過ごしたのだ。正直言って、総合的な学習の時間の中では、希望する進路先に胸を張って売り込めるような大きな経験を生徒達にさせられていなかった。……悔しい。大学入試改革が先行して教育改革が進むという現場に自らがいることを痛感し、世の中のニーズに応じて学校現場も変容しなければならないことを突き付けられた気がした。そして、この春、新教育課程の下で入学した生徒達を担当することとなり、社会に何が求められているのか、まずは地域社会に協力を仰ぎ、総合的な探究の時間を上手く使って実践的なキャリア教育に取り組もうと３月末から動き始めた。

2 『茂高街塾』とは？

『茂高街塾』とは、人と人が行き交う場所である『街』について良く見聞きし考え、自らが身を置く『街』のより善いあり方を考えることでより善い生き方を模索し、社会を担う人材として、より善い社会の在り方について考え行動できる力を育むことを狙いとした取組である。次図の計画を、茂原商工会議所や近隣市町村、教育・福祉関連施設に打診し協力を仰いだところ、快諾をいただき、今年度から次に紹介する活動を実践している。



3　テーマ別『座談会』

６月19日（月）、全22事業所から講師を招き、１学年全生徒160名が２～14名のグループになり、21の分野に分かれて多岐にわたる分野のテーマ別の座談会を行った。生徒は合計２種類の座談会に参加し、初対面の大人との懇談に緊張しつつも、地域の第一線で活躍されている講師の方々による、各分野での課題について迫力のある話を聞き、大いに刺激を受けた。協力いただける事業者側にテーマ設定を一任したところ、私たち教員にとっても、巷で話題となっているテーマを当事者から直接聞ける貴重な機会となり大変に勉強になった。

座談会テーマ

①茂原市のものづくり
②茂原市の新しい銘産品
③流通業界（卸・小売）の仕組みと「物が売れない時代」をどう乗り越えるか？
④新しい観光・イベントを考える
⑤復活！！茂原七夕まつりA/B
⑥「家業を継ぐ」を考える
⑦人口減少による産業へ影響
⑧ブランディング（値段は誰が決めるのか）
⑨商業施設・アスモの拡充
⑩脱炭素及び省エネルギーの取組み
⑪和装カルチャーの復興について
⑫ファッションの移り変わりと今後
⑬IT、WEBスキルを地方でどう活かす？
⑭料理人になるために修業は必要か？
⑮快適な住環境とSDGｓ
⑯建設業界に週休２日が定着するか
⑰福祉・介護業界に求められている人材・能力　A/B
⑱和食の心・食の安全
⑲翌日から翌々日配送へ！？ 2024年問題
⑳農業だけで生計をたてられるか
㉑豊かな自然で子供を育む

4 『夏 街Dive!!』

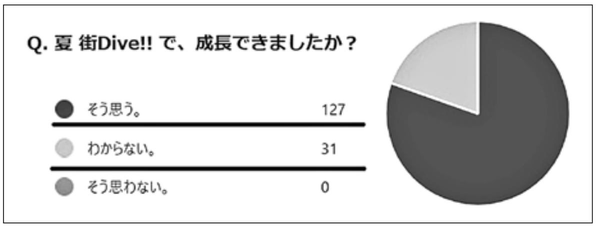
夏季休業中には、１学年生徒全員が36の協力事業所やイベントにわかれ、インターンシップ・ボランティア体験をした。体験期日の調整を生徒自身が電話をかけて行うなど、生徒自らが主体的に動くことが求められる、大きな成長につながる経験となった。Formsを利用して体験後アンケートを募ったところ、この企画を通じて８割の生徒が自身の成長を実感できたとの回答をし、以下に一部を紹介するような、街の現場で体験したからこそ出てくる生徒達のキラキラとした感想が集まってきた。どれも、受け入れ側の温かくも真剣な対応の賜物であり、街の方々が持つキャリア教育の潜在力を目の当たりにした。２学期になり、何だか逞しくなった生徒達を見て、文字どおり、街の現場に生徒達をDive!! させて良かったという確かな手応えを感じている。文化祭時には、この経験をまとめたレポートを掲示発表し、外部への活動の報告や生徒間での体験の共有にも繋げることができた。現在は、掲示やレポート賞の投票を続けており、今後、それぞれの生徒の体験を確かな自信につなげていけるように工夫していきたい。

事後アンケート・御礼より、抜粋↓↓↓

ボランティアする日を一日しか選ばなかったのが後悔です。
職員の方々は気さくで私たちにも優しく、
子供たちと笑顔で接する姿は、僕の理想の大人でした。（中略）
またの機会があればそちらのイベントや体験に参加したいです。
（S.K　社会福祉施設でDive!!）

自分の興味のある事を実際に仕事にしている方々と直接お話をしてみて、
改めてとてもかっこいいなと思いました。
私はまだ将来について決められていませんが、
今回学ばせていただいた事はきちんと心に留めておきたいです。
（R.T 印刷広告会社でDive!!）

周りの社長さん達が裏方を担当していて、
勝手な想像で社長さん達は偉そうにしてるかと思いましたが、
人一倍働いて僕たち子供にも気遣ってくださっていて、
こういう人たちが成功するんだなと思いました。（中略）
僕も皆さんの様に色々な人に優しくできる人になりたいと思いました。
（M.M 茂原七夕祭でDive!!）



5 今後の取組

各自が体験をした分野での魅力や課題をまとめ、持続可能な街づくりへの提言も盛り込んだ動画を作成し、コンテストへの応募や街の方々への報告を予定している。また、動画作成について、夏 街Dive!! でお世話になった企業の方から指南いただいたり、地域のSDGsに関係する取組に参加を呼びかけていただいたりと、生徒の成長の可能性は広がりを見せている。

6 おわりに

現代の社会において、社会の形成者たる個人に何が求められているかは、時々刻々と変化している。

『茂高街塾』の取組で、学校を街に開き、街の方々の助けを借りたことで、暗中模索の中で、荒波の社会に生徒を送り出すのではなく、確かな灯台を幾つも生徒達に提示することができるように感じている。学校と街との協働は、個人の納得のいくキャリア形成、健全な地域社会の形成、ひいては、善き社会の形成にとって、大きな効果があると実感している。まさに、街にこそ、師あり！である。